

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大分市立金池小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	40
児童数	96	81	112	99	93	91	5	577	

研究の概要

1. 研究主題

<p>自ら学び確かな力をつけていく子どもの育成 算数科における個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善をめざして</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年・算数 内容が系統的で学力に差が生じやすい教科である。 子どもや保護者の算数科の学力向上に対する期待には大きなものがある。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 効果的な学年内・学級内コース別指導の授業づくり</p> <p>研究仮説 子どもの興味・関心を高めるように教材を工夫して算数的活動を仕組み、個々の状況に応じた学び合いの場や補充・発展の学習の場を位置付ければ、一人ひとりが学ぶ楽しさを味わいながら主体的に確かな力をつけていくであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>子どもが主体的に学ぶ教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数的な活動を取り入れた教材の工夫，発展学習や補充学習など個に応じた指導のための教材の工夫 学級内，学年内コース別を取り入れたきめ細かな指導方法の工夫 ・コース別指導を取り入れた学習過程の工夫 <p>学習状況を的確に評価した指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準の活用と評価基準の位置づけ，評価方法を工夫した指導の工夫改善 </div> <p>1 研究体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上フロンティア事業についての趣旨や内容の共通理解 ・研究組織づくり ・研究全体構想の構築 <p>2 指導体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース別指導に対応できる指導体制づくり ・研究内容の具体的研究実践を行う指導体制づくり <p>3 評価体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準の設定と見直し ・学校評価の実施
--------	---

- 4 具体的研究実践の取組
- ・コース別指導における昨年度の取組と本年度の方向性の共通理解
 - ・学習基本過程「みつめる」「みとおす」「かんがえる」「ひろげる」の位置づけ、見直し
 - ・全体研、部会研におけるコース別指導を取り入れた授業実践
 - ・授業実践を通して研究仮説の検証を行う。
 - ・指導 部会の各部における研究内容の具現化

平成
16
年度

テーマ

効果的な学年内・学級内コース別指導の授業づくりと個々に生きる評価のあり方

研究仮説

子どもの興味・関心を高めるように教材を工夫して算数的活動を仕組み、的確に評価しながら個々の状況に応じた学年内（学級内）コース別指導を位置付けていけば、一人ひとりが学ぶ楽しさを味わいながら主体的に確かな力をつけていくであろう。

研究の内容・方法

子どもが主体的に学ぶ教材の工夫

- ・算数的な活動を取り入れた教材の工夫，発展的な学習や補充的な学習など個々の状況に応じた教材の工夫

学級内，学年内コース別を取り入れたきめ細かな指導方法の工夫

- ・「かんがえる」段階と「ひろげる」段階に学年内（学級内）コース別指導を取り入れた学習展開の工夫

- ・個々の状況に合ったコース選択ができる自己評価の工夫

- ・子どものニーズに応じた発展的な学習の工夫

学習状況を的確に評価した指導の工夫

- ・評価規準の活用と評価基準の位置づけ，的確に評価する方法の工夫と評価を基にした指導の工夫

1 研究体制づくり

- ・研究組織づくり
- ・研究全体構想の見直しと修正

2 指導体制づくり

- ・コース別指導に対応できる指導体制づくり
- ・研究内容の具体的研究実践を行う指導体制づくり

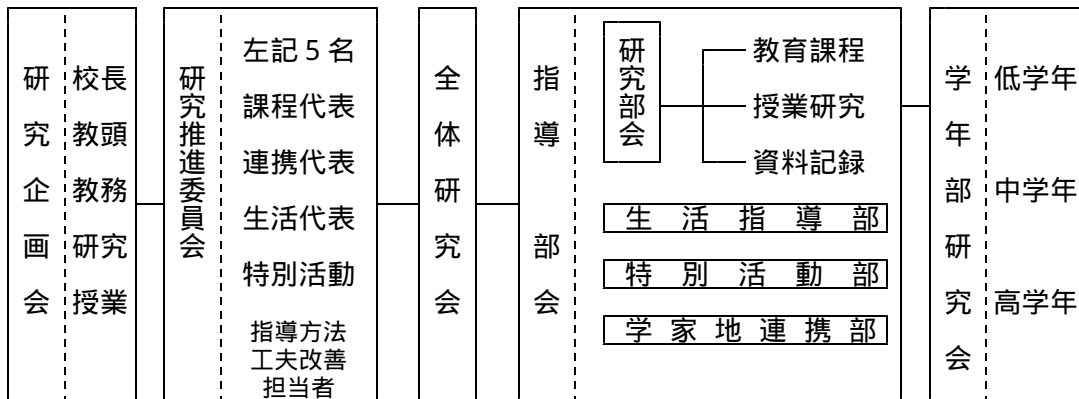
3 評価体制づくり

- ・評価規準の見直しと位置付け
- ・評価基準の見直しと位置付け
- ・学校評価の実施

4 具体的研究実践の取組

- ・コース別指導における昨年度の取組と本年度の方向性の共通理解
- ・学習基本過程「かんがえる」段階と「ひろげる」段階にコース別指導を位置付けた授業実践
- ・発展的な学習の位置付けを工夫し，個々のニーズに合うようにする。
- ・授業実践を通して研究仮説の検証を行う。
- ・評価基準，評価方法の位置づけと1時間毎の評価方法や単元全体の評価方法の具現化を図る。
- ・指導 部会の各部における研究内容の具現化
 - ・学習のきまりの徹底と学習態度の育成
 - ・学習環境の充実
 - ・家庭，地域との連携

(3) 研究推進体制



コース別指導の指導体制

学年内コース別指導では、学級担任（3名）と算数担当者（1名）、1～3年・4～6年担当者（1名）の5名で指導する。
 学級内コース別指導では、学級担任（1名）と算数担当者（1名）、1～3年担当者（1名）の3名で指導する。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

フロンティアスクールの指定を受け、算数科でコース別指導を取り入れて子どもたちの確かな力の育成を目指し、1年間研究に取り組んできた。研究体制づくりや指導体制づくりをして具体的研究実践を重ねる中で、次のような成果が明らかになった。

(1) 効果的なコース別指導のあり方

学年内・学級内コース別指導を位置付けて単元を展開し、教材を工夫しながらきめ細かな指導を実践する中で、子どもたちの主体的な学びや学習内容の定着ができてきた。

【かんがえる】段階

具体物や半具体物を用いた算数的活動を取り入れて教材を工夫し、コースを設定する。そして、調べる方法や内容からコースを選択させ、問題解決学習の展開でコース別指導を行うと個々の学習意欲の高まりにつながる事が分かった。

・第6学年「体積」の学年内コース別指導後のアンケート調査の結果では、全体の95%の子どもたちが「分かった。」「よく分かった。」と答え、ほとんどの子どもたちが楽しく学習できたことを感想に記入していた。また、コース別指導後の学習でも意欲的に取り組む子どもたちの姿が見られた。

【ひろげる】段階

楽しみながら習熟できるように教材を工夫してコースを設定し、学習内容の定着状況を捉えさせるように工夫してコースを選択させる。そして、コース別指導では個々の状況に合うように学習の進め方を工夫しながら繰り返し指導すると個々の力の高まりにつながる事が分かった。特に、低学年で有効である。

・第1学年「ひき算(3)」の学年内コース別指導では、ドットカードを使ったゲームをするコースからカードを使わずにさくらんぼ図で考えたり念頭で操作したりするコースへ変わる子どもが増えていった。1分間テストでの正答が、最初さくらんぼ図を使った計算で0問だった子どもが最後は念頭で10問と飛躍的に伸びた。

学級内コース別指導	ドットコース	さくらんぼコース
1回目	14人	18人
2回目	10人	22人
3回目	8人	24人

個々の学習内容の定着状況をとらえ補充的・発展的な学習のコースを位置付け、個々に定着状況を捉えさせるように工夫してコースを選択させる。そして、コース別指導では各コースのねらいにあった教材を準備し、子どもの習熟の状況に合わせて学習の進め方を工夫すると個々の力の高まりにつながる事が分かった。

- ・第3学年「水のかさ」の学年内コース別指導後のアンケート調査の結果、全体の92%の子どもがコースが自分にあっていたと答え、「よく分かった」「分かった」と答えた子どもは、全体の98%であった。次時の単元末テストの結果からもほとんどの子どもが学習内容の定着ができていると評価できた。

(2) 効果的な評価・指導のあり方

個々の状況に応じたコース別指導を実施するためには、子どもによる自己評価と教師による的確な評価が不可欠であり、子どもの自己評価する力を高める手だてや的確に個々の状況を捉える方法をより明らかにしていこうとする方向が見いだされた。

評価については、次のようなことを考えて実践し、個々の力の変容や高まりをとらえていくようにした。

教師による評価

- ・単元の導入前にレディネステストを実施し、個々の状況把握をしてコース別指導の位置付けや指導・支援に生かす。
 - ・指導計画、本時案に評価規準を位置付け、その評価規準をもとにしながら個々の学習の評価をしていく。
 - ・「ひろげる」段階のコース別指導を実施する前には、子どもの発達段階に応じてドリルやミニテストを位置付け、個々の学習内容の定着状況をとらえ、コース別指導の位置付けや指導・支援に生かす。また、コース選択時の支援にも生かす。
 - ・コース別指導の授業の終わりには子どもにアンケートを実施し、子ども一人ひとりの意識をとらえ、指導方法の工夫改善に生かす。
 - ・単元末には、テストを実施して個々の学習内容の定着状況を把握して、指導方法の工夫改善に生かす。
- ### 子どもによる自己評価
- ・「ひろげる」段階でのコース選択時にドリルやミニテストの結果をもとに自己評価する。
 - ・授業の最初と終わりやコース別指導の最初の時間と終わりの時間にミニテストをしてその結果を比較して自分の伸びをとらえる。

(3) 保護者、地域との連携

校報「わになって」新聞の発行、フリー参観日、学年だより等によってコース別指導の授業の取組を紹介し、保護者や地域の理解が深まってきた。

(4) 研究を推進する指導体制

学年内コース別指導を取り入れて授業を展開する中で、一人ひとりが研究の主体者となり、教材や指導計画の検討や事前の打ち合わせ等、教師間の連携、協力が確立されてきた。

2. 今後の課題

子ども一人ひとりの状況に応じたコース別指導を位置づけて確かな力をつけていくためには、教師による評価と子どもによる自己評価に視点をあて研究をより深めていくことが必要であることが明らかになってきた。そこで、次のようなことが今後の課題として残された。

評価基準をより具体的に位置付け、評価方法を明確にして1時間毎の個々の学習状況を的確に捉えられるようにする。

単元を通して個々の変容する姿（確かな力をつけていく姿）をとらえやすくするために評価基準や学習カード、ミニテスト等を活用した評価方法をより具現化する。

子ども一人ひとりが学習状況に合ったコースを選択できるように、コース別指導実施前の学習や単元全体の学習を工夫しながら自己評価の力を高める指導・支援のあり方を明らかにする。

子どもの実態を踏まえ、コース別指導における発展的な学習を工夫する。

子どもが学習したことを振り返り、学び方の確かめや学習内容の定着ができるようにノートの充実やカードの工夫を図る。

学習したことを振り返ったり生かしたりできる学習環境づくりや学習態度の育成にも積極的に取り組み、子どもの確かな力の育成を目指す。

学力等把握のための学校としての取組

評価規準を1時間毎に具体的に位置付け、それを基にして観察の記録や学習カード、ノート、ミニテスト、アンケート等を活用しながら個々の到達度を捉えている。

児童の学習内容の定着ができているか捉えるために、各単元の学習終了後にテストを実施している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開研究発表会の開催

日時：平成16年6月18日（金） 午後のみ 予定

場所：大分市立金池小学校

対象：県下の小・中学校

目的：研究成果の普及に努めるとともに、ご指導やご示唆をいただき研究をさらに深めていく。

1年次の研究を基にHPの作成をし、研究成果の普及に努める。 予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無